

	一般社団法人名古屋大学農学部・生命農学研究科 同窓会報	発行所	一般社団法人名古屋大学農学部・生命農学研究科同窓会 名古屋市千種区不老町 http://www.agr.nagoya-u.ac.jp/~dosokai/
	セコイア通信	編集人	藤田祐一・本道栄一
		発行人	小川雄二
		印刷所	株式会社 クイックス

困難を乗り越え、未来を切り拓くために：改革と挑戦へのご支援のお願い

名古屋大学大学院生命農学研究科長・農学部長 中 園 幹 生



名古屋大学農学部・生命農学研究科同窓会会員の皆様におかれましては、日頃から農学部および大学院生命農学研究科の教育・研究活動にご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。また、この春に卒業・修了を迎えられた皆様に心よりお祝い申し上げます。今後のさらなるご活躍とご発展をお祈りいたします。名古屋大学農学部（1951年創立）および大学院生命農学研究科（1953年創立）は、70年以上の歴史を誇り、これまでに数多くの卒業生・修了生が社会に巣立ち、国内外の産業界、行政、アカデミアなどの様々な分野で活躍されていることを大変嬉しく存じます。

現在、名古屋大学は「世界と伍する研究大学」を目指し、学部から大学院での博士人材育成までを一貫して繋げ、国際的に通用する先進的な教育・人材育成を行いながら、世界トップクラスの知的成果を創出するために、大規模な大学改革に挑戦しています。また、2020年に設立された国立大学法人東海国立大学機構では、名古屋大学と岐阜大学が連携し、大学・産業界・地域が相互に発展する好循環を生み出し、国際競争力の向上と地域創生の同時実現を目指す新たなモデルを構築しています。

名古屋大学農学部・大学院生命農学研究科は、名古屋大学および国立大学法人東海国立大学機構の改革を支える重要な役割を担い、生命農学分野における世界最高水準の研究推進を目指しています。この使命を達成するため、「生命農学分野の知の拠点」の形成を目指し、研究と教育の両面での卓越性を追求しています。特に、国内外で直面している食・環境・健康に関する課題解決に貢献できる高度専門人材の育成と、研究のさらなる発展を促進する取り組みを強化しています。具体的には、学生が海外の大学で学び、国際的な視野を広げる機会を提供することで、グローバル社会に貢献できる人材の育成を推進しています。この取り組みにより、生命農学分野における国際的な教育・研究拠点の確立を目指し、ノースカロライナ州立大学、シンガポール国立大学、西オーストラリア大学、カセサー

ト大学などの海外のパートナー大学との教育・研究交流を円滑に進めるための学生交流プログラムの整備に注力しています。また、農学部・大学院生命農学研究科の国際研究ネットワークを拡大するために、「若手教員の海外派遣プログラム」や、米国のノースカロライナ州立大学との「シードファンドプログラム」などの新たな制度を設け、若手教員の国際共同研究の機会を増やしています。そのほか、「生命農学分野の知の拠点」の形成に向けた多くの取り組みをしています。

しかしながら、このような改革と挑戦には、相応のコストがかかります。通常、これらは部局の予算で賄うべきものですが、昨今の電気代の高騰により、部局の予算は逼迫しており、今後は毎年大幅な赤字が見込まれています。このような困難な状況に直面している中でも、農学部・大学院生命農学研究科のさらなる発展を目指して歩みを止めることなく、改革と挑戦を加速させていかなければならないと考えています。農学部・大学院生命農学研究科の未来を切り拓くための改革と挑戦にご賛同いただけましたら、ぜひともご寄附をご検討賜りますようお願い申し上げます。農学部・大学院生命農学研究科の発展と次世代の育成に向けて、皆様のご理解とご支援を心よりお願い申し上げます。

現在実施中の募金キャンペーンに関する詳細は、名古屋大学農学部・大学院生命農学研究科のホームページにてご確認いただけます。以下の URL / QR コードからのアクセスしていただくか、または「名大農学キャンペーン」で検索していただくと、寄附の手順をご覧ください。

《名古屋大学農学部・生命農学研究科教育研究基金（特定基金）募金キャンペーン詳細》

<https://www.agr.nagoya-u.ac.jp/contribution/campaign.html>



キャンペーン
QRコード

今後、農学部・大学院生命農学研究科は、同窓会会員の皆様が築いてこられた70年の歴史と伝統を次世代に確実に継承し、さらに新たな教育・研究活動を推進

することで、一層の発展を目指してまいります。今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

名古屋大学農学部・生命農学研究科同窓会の現状と今後の展望

名古屋大学農学部・生命農学研究科同窓会 会長 小川 雄二

同窓生の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。また、農学部・生命農学研究科を今年度ご卒業、ご修了された皆様方には、心よりお祝い申し上げますとともに、晴れて同窓会員なられた皆様を、同窓生1万人を代表して熱烈に歓迎いたします。

2023年10月21日に開催されました同窓会総会において、同窓会長に再任されました小川雄二でございます。1978年に農芸化学科を卒業、1983年に食品工業化学専攻博士課程を満了し、現在は愛知県内の私立大学に勤務しております。

長年、任意団体として運営してきた同窓会は、2021年10月16日の総会で一般社団法人化を議決し、2022年10月15日（土）に一般社団法人名古屋大学農学部・生命農学研究科同窓会に移行いたしました。一般社団法人化後の同窓会は、意思決定を行う「理事会」と業務執行を行う「幹事会」の両輪で運営しております。業務の多くを農学部・生命農学研究科の現役の先生方からなる「卒業生との連携委員会」の先生方が担ってくださっており、このことが安定的な活動につながっています。

名古屋大学農学部・生命農学研究科との間では、「連携協力に関する覚書」も締結しております。さらに、農学部の執行部の先生方と定期的に懇談の機会をもつとともに、学部内に場所をお借りして同窓会事務局員も配置しております。改めて、関係者の皆様のご協力に感謝申し上げます。

名古屋大学農学部からは、約10,000名の学士、6,000名の修士および2,000名の博士がこれまでに巣立ち、様々な産業分野、行政、アカデミア等で活躍されてい

ます。同窓会としても卒業生・修了生の国内外での活躍を把握し、これを農学部の教育研究にフィードバックしたり、大学および学部・研究科の財政基盤の充実のための支援を受ける仕組みを構築する等々が強く望まれています。また、学生の就職支援に関しても大きな期待が寄せられています。

こうした期待される役割を同窓会がさらに果たしていくためには、安定した財政基盤の確立が必要不可欠となっています。そこで、昨年「緊急のお願い」をさせていただいたところ、多くの皆様がそれ応えて、永年会費を納入してくださいました。永年会費の納入状況についてご不明な点がございましたら、お気軽に事務局までご一報ください。また、ご寄付についてのご相談や農学部についての情報提供にお応えできる体制を整えております。同窓会のこと、農学部のことなど何なりとお問い合わせください。

同窓会は、セコイア通信の発行、卒業関連諸行事、入学関連諸行事、名古屋大学ホームカミングデーに合わせた「卒業・修了50周年記念祝賀会」、総会、講演会を行うほか、関東支部、関西支部も積極的に活動しております。行事の詳細は、本セコイア通信の別頁に掲載しておりますほか、同窓会ホームページでも随時ご案内をしております。

同窓生の皆様におかれましては、これまで以上に同窓会活動に関心を寄せていただきますとともに、同窓会諸行事、支部行事へのご参加を心よりお待ちいたしております。



令和7年度名古屋大学農学部・生命農学研究科同窓会 代議員会、総会、講演会、懇親会のご案内

名古屋大学農学部・生命農学研究科同窓会では、名古屋大学ホームカミングデイに合わせて代議員会、総会、講演会、懇親会を開催いたします。詳細は、同窓会ホームページ（<https://www.agr.nagoya-u.ac.jp/~dosokai/>）にてご案内いたしますので、後日ご確認ください。

○代議員会

日 時：2025年10月18日（土） 12：30（予定）

場 所：名古屋大学農学部

○総会、講演会

日 時：2025年10月18日（土） 14：00（予定）

場 所：名古屋大学農学部

会 費：無料（講演会は一般に公開いたします）

講 師：選定中。詳細は、同窓会ホームページにてご案内します。

○懇親会

日 時：2025年10月18日（土） 16：30（予定）

場 所：名古屋大学農学部（予定）

参加費：1,000円（予定）

連絡先：農学部・生命農学研究科同窓会 幹事会 総務 本道 栄一

メールアドレス：ehondo@agr.nagoya-u.ac.jp

同窓会の開催について

同日に個人的に同窓会を企画される場合、農学部・生命農学研究科同窓会の懇親会を1次会としてご利用いただくことができます。同窓会事務局（dosokai@agr.nagoya-u.ac.jp）まで事前にご連絡下さい。必要に応じて、同窓会ホームページを掲示板としてご利用いただくこともできます。

昭和50年卒業生および修了生（満期退学）の卒業50周年記念祝賀会の案内

昭和50年卒業生および修了生（満期退学）の50周年記念祝賀会は、名古屋大学ホームカミングデーに合わせて2025年10月18日（土）に開催する予定です。後日、祝賀会へのご招待状を送付させていただきます。万障お繰り合わせの上ご出席ください。祝賀会に関する情報は、8月以降に農学部同窓会ホームページ（<https://www.agr.nagoya-u.ac.jp/~dosokai/>）にも掲載いたしますので、ご確認ください。

卒業生の言葉

学生生活を振り返って

生物環境科学科 生物システム工学研究室 根橋 愛実

農学部に入學してから4年間、本当に充実した日々を過ごすことができました。私は以前から木材について専門的に学びたいという思いを抱き、この学部学科を目指しました。一年間の浪人を経て、第一志望の名古屋大学に合格したときの喜びは、今でも忘れることができません。念願の学びの場で、一人暮らしをしながら、自身の興味に貪欲に取り組んだ日々は、私の人生にとって大きな財産となりました。

生物環境科学科では、少人数ならではの魅力を多く感じることができました。35人という規模だからこそ、学生同士の距離が近く、日々の学びに加えて同期との交流がもう一つの楽しみでした。特に3年生の夏に行われた稲武での8日にわたる合宿は、座学では得られない実地での経験とともに、忘れられない思い出となりました。

研究室に配属されてからは、3年生までの授業では深く学ぶ機会がなかった生物システム工学分野において、非破壊的に木材を計測する研究に取り組みました。工学的な知識のない自分にとって新しい挑戦であり、当初はデータの扱いに苦労しましたが、1年間テーマに向き合いながら主体的に取り組んだことで、自信や愛着を得ることができました。

また、研究室では、それまで関わりのなかった先輩方や留学生との新たなつながりができました。自分の知識や技術の未熟さを痛感することも多々ありましたが、わからないことを素直に「わからない」と言える環境があり、それを支えてくれる仲間の存在は本当に心強く、大きな励みとなりました。研究活動だけでなく、旅行や食事会などを通じて絆を深めることができたことも、心に残っています。

最後になりますが、これまで支えてくださった全ての方々に感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。遠くから見守り応援してくれた家族、私の大学生活を彩ってくださった先生方、先輩方、同期のみんな、そして関わってくださった全ての方に、心から感謝いたします。皆様の未来に幸多からんことを心より願っております。



好奇心を大切にした大学4年間

資源生物科学科 植物生理形態学研究室 中川 万由子

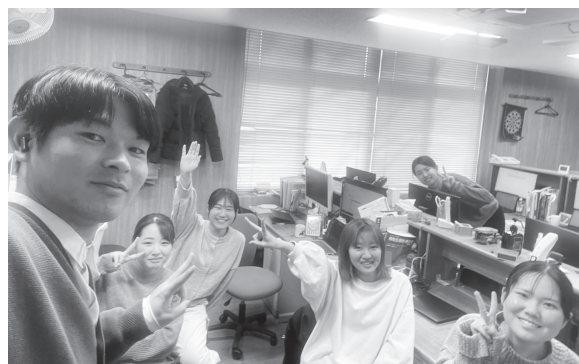
あっという間だった大学生活は、まさに「楽しそうな方へ動いた」日々でした。

入学してすぐは不安もあったけれど、新歓で楽しそうだと惹かれた部活に入り、打ち込み、大会で入賞することができました。仲間と一緒に喜びを分かち合えたことは、大きな自信につながりました。部活を通じて出会い、苦楽をともにした仲間と過ごした日々は、青春そのもので、忘れられない思い出です。

部活を引退してからは、新しい楽しみを求め、いろいろな場所へと足を延ばしました。日本各地を車中泊で巡り、ヨーロッパや東南アジアへは何度も旅に出ました。特に、5泊6日で行った四国一周の車中泊旅、2週間のヨーロッパ旅行、東南アジア各国を巡る旅は、辛ささえ笑い合える友人と一緒にだったからこそ最高の思い出になりました。また、知らない土地を訪れ、新しい文化や見たことのない景色を目にすることで、自分の世界がどんどん広がっていくのを感じました。こうした経験は、机上の勉強だけでは得ることのできない大切な財産になったと思います。

そして、4年生になってからは、また違う「楽しそうなこと」に挑戦しました。大学院入試の勉強はもちろん、資格試験の勉強や、世の中の出来事について知識を深めることにも時間を費やしました。4年生の後半には、工学部や他の研究室と共同研究を行う機会をいただき、さらに石垣島で行われた研究交流会にも参加しました。研究室では、他の人がなかなか経験できないような挑戦や学びを得ることができ、研究の奥深さを知るとともに、新たな興味の発見につながりました。

最後になりますが、こうして大学生活を存分に楽しみ、多くの学びを得ることができたのは、支えてくれた人たちのおかげです。ご指導くださった研究室の先生方、学生生活を支えてくれた家族、一緒に楽しさを共有してくれた友人に、心より感謝いたします。これからも楽しみを求め、成長し続け、周りの人にとって「良い出会いだった」と思われるような存在になれるよう、精進していきます。



大学生活を振り返って

応用生命科学科 ゲノム情報機能学研究室 稲澤 杏実

名古屋大学に入学して早くも4年が経ち、まもなく大学卒業を迎えることに驚くばかりです。コロナ禍の下、あまり実感のないまま始まった大学生活でしたが、様々なことを経験し、考えた4年間でした。

中でも印象深いのは、4年次から配属された研究室です。研究室に入ったばかりの頃、私は不安で一杯でした。実験についての詳細な講義とテキスト、そして予想された結果がある学生実験とは異なり、研究室では未知の事象を調べていかなければなりません。もちろん研究という新たな経験ができることに期待もありましたが、自分に研究ができるのかという思いが一番強かったのを覚えています。想像していた通り研究は難しく、約一年経った今でも大変です。しかし、まだ知られていないことを自分の手で明らかにしていくという研究ならではの面白さを、日に日に感じるようになりました。また、物事を効率良く進める方法を常に考えるようになったり、人前で話すことへの苦手意識が薄れたりするなど、研究以外で成長したと思える部分もあります。この一年間、先生方や先輩方のご指導と、共に切磋琢磨できる同期生の存在のおかげで、有意義で楽しい研究室生活を送ることができました。

そして、入学してから今まで、様々なことに挑戦する同級生や友人に出会いました。彼らに刺激を受けて、私も色々なことに挑戦しようと思い、以前よりも積極的に物事に取り組むことが出来るようになりました。大学生活を送る中で経験し学んだことは、今後の人生においても大いに役立つ事と思います。

卒業後は大学院に進学し、勉強を続けます。今まで以上に好奇心と広い視野を持って研究に臨み、より多くのことを学び吸収したいと考えています。

最後になりましたが、大学生活を共にした友人、指導して下さった先生方や先輩方、いつも見守り応援してくれた家族に、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



名古屋生活を振り返って

応用生命科学専攻 分子生物工学研究室 池田 翔

6年間の名古屋での生活を振り返ると、学校でもそれ以外でも、本当にさまざまな経験をした期間だったと感じます。

大学に入学してまず驚いたのは、学ぶ内容の難しさと奥深さでした。教科書はどれも分厚く、「ここから先のことはまだ解明されていない」というような記述に出会うこともありました。友人とこの言葉を見たとき、自分たちが最先端の学問に触れていることに感動したのを覚えています。

私たちの学年は、2年生になるタイミングでコロナ禍によりオンライン授業が主流になりました。最初は、すべてを自宅で完結できる便利さを感じた一方で、自分で時間を管理しなければどんどん授業についていけなくなる厳しさもあり、慣れるまで時間がかかりました。友人と直接会う機会が減り、単調な毎日に虚無感を覚えることもありました。しかし、よくない状況には必ず終わりがあるもので、半年から1年ほどかけて対面授業が徐々に復活し、今ではほとんど元の生活を取り戻しました。振り返ると、オンライン環境が進化する現代において、直接人と関わることの大切さを実感できた貴重な期間だったように思います。

4年生になり、研究室に配属されました。この3年間、研究活動では思うようにいかないことがほとんどでした。そのたびに支えになったのが研究室の仲間たちです。頼れる先輩、かわいい後輩、そして面白い同期に囲まれ、本当に恵まれた環境だったと感じています。そして、そんな環境を作ってくださったのは先生方のおかげだと思います。近すぎず遠すぎず、心地よい距離感で接して下さり、ときには厳しい言葉をかけながらも親身に指導していただきました。

最後になりますが、今まで支えてくれた家族、友人、先生方、先輩方、後輩のみんなに心から感謝申し上げます。名古屋での経験を大切にしながら、これからの社会人生活を頑張っていきたいと思います。皆様のご活躍も応援しています。



令和6年度総会、講演会、懇親会の報告、同窓生在籍企業紹介の報告

令和6年度の総会を名古屋大学ホームカミングデーにあわせて、令和6年10月19日（土）に農学部第12講義室にて開催いたしました。会長ならびに名誉会長の挨拶に続き、事業・決算報告を行いました。また令和6年度の事業計画・予算を審議しました。総会には30名の方にご出席いただきました。講演会は榊原均氏（名古屋大学大学院生命農学研究科、1988年卒）によるご講演「栄養環境に応答した植物成長調節の分子機構」

を第12講義室において開催しました。40名の参加があり大変盛況となりました。また今年は同窓生在籍企業による企業紹介を行いました。同窓生が在籍する9企業がポスター掲示により現役学生に企業紹介を行いました。多数の学生が参加し盛況となりました。
また夕方には交流会を第7講義室において開催し、親睦を深めました。

昭和49年卒業生および修了生（満期退学）の卒業50周年記念祝賀会の報告

令和6年10月19日（土）名古屋大学農学部大会議室において、農学部談話会との共催により昭和49年卒業生および修了生（満期退学）の卒業50周年祝賀会を開催いたしました。22名の卒業生の皆様をはじめ、談話会会員、現職員、および同窓会役員合計39名の出席で盛大に行われました。祝賀会では、同窓会会長 小川雄二様、ならびに生命農学研究科長・農学部長 中園

幹夫教授よりご挨拶をいただきました。続いて農学部談話会 福田勝洋先生の乾杯のご発声の後、昼食、歓談となりました。出席いただいた方々から自己紹介と近況についてのご報告をいただき、会は和やかな雰囲気の中進行しました。また、互いの旧交を温めておられました。

人事異動（2024年1月1日～2024年12月31日）

日付	氏名	異動内容	職名	所属
2024.3.31	大井 崇生	退職	助教	大学院生命農学研究科植物生産科学専攻
2024.3.31	北浦 靖之	退職	講師	大学院生命農学研究科応用生命科学専攻
2024.3.31	束村 博子	定年退職	教授	大学院生命農学研究科動物科学専攻
2024.3.31	田中 隆文	定年退職	准教授	大学院生命農学研究科森林・環境資源科学専攻
2024.3.31	小川 一治	定年退職	講師	大学院生命農学研究科森林・環境資源科学専攻
2024.3.31	北島 健	定年退職	教授	生物機能開発利用研究センター
2024.3.31	高橋 史彦	任期満了退職	教授	大学院生命農学研究科（産学連携担当）
2024.4.1	小谷亜由美	昇任	准教授	大学院生命農学研究科森林・環境資源科学専攻
2024.4.1	COROVIC Jasmina	昇任	准教授	大学院生命農学研究科応用生命科学専攻
2024.4.1	馬 特	配置換	助教	大学院生命農学研究科森林・環境資源科学専攻
2024.4.1	三高 雄希	採用	助教	大学院生命農学研究科動物科学専攻
2024.4.1	新庄 莉奈	配置換	助教	大学院生命農学研究科応用生命科学専攻
2024.4.1	井上 貴斗	採用	助教	大学院生命農学研究科応用生命科学専攻
2024.4.1	塩谷 和基	採用	助教	大学院生命農学研究科応用生命科学専攻
2024.5.1	王 晗	配置換	助教	大学院生命農学研究科森林・環境資源科学専攻
2024.7.13	竹下 広宣	死亡退職	准教授	大学院生命農学研究科植物生産科学専攻
2024.9.1	奥寄 雄也	配置換	助教	大学院生命農学研究科附属鳥類バイオサイエンス研究センター
2024.9.1	加藤 晃代	昇任	准教授	大学院生命農学研究科応用生命科学専攻
2024.10.1	永田 隆平	採用	助教	大学院生命農学研究科応用生命科学専攻

（人事係より提供された情報をもとに作成しました。糖鎖生命コア研究所への異動関係は除いております。）

2024年度名古屋大学大学執行体制・全学組織における役職者 （生命農学関係分）

参与	川北 一人	トランスフォーマティブ生命分子研究所拠点長	吉村 崇
評議会選出評議員	池田 素子	附属図書館副館長	浅川 晋
ジェンダーダイバーシティセンター長	山崎真理子	高等研究院副院長	榊原 均
アジアサテライトキャンパス学院長	山内 章	学術研究・産学官連携推進本部副本部長	福島 和彦
統合生命医科学糖鎖研究センター長	佐藤ちひろ		

農学部・生命農学研究科同窓会ホームページ案内

同窓会の活動は農学部・生命農学研究科同窓会（セコイア会）ホームページでもご覧いただけます（<https://www.agr.nagoya-u.ac.jp/~dosokai/>）。住所変更・寄付金・会費などのご案内もございますのでぜひご覧ください。ホームページに関するご意見・ご要望がございましたらお寄せください（HP 担当：inatetsu@agr.nagoya-u.ac.jp）。またセコイア会では会員の皆様のメールアドレス収集に努めております。Google フォーム（<https://forms.gle/MrkmXtUkWibBf8fHA>）からメールアドレスをご教示くださいますようお願い申し上げます。



セコイア会 HP
QR コード



メールアドレスご登録
QR コード

一般社団法人名古屋大学農学部・生命農学研究科同窓会 令和5年度（令和5年9月—令和6年8月）事業報告

1. 総会の開催

令和5年10月21日、名古屋大学農学部第12講義室において総会を開催した。

2. 卒業・修了50周年記念祝賀会の開催

令和5年10月21日に卒業・修了50周年を迎えた方をご招待し、農学部卒業50周年記念祝賀会を開催した。

3. 同窓生在籍企業紹介の共催

令和5年10月21日に名古屋大学農学部との共催で同窓生在籍企業紹介を開催した。

4. 講演会の開催

令和5年10月21日に名古屋大学農学部第12講義室において、講演会を開催した。

講師：愛知県米麦振興協会 藤井 潔 氏

演題：「名大スピリットが教えてくれた「見果てぬ育種の夢」へのチャレンジ精神」

5. 交流会の開催

令和5年10月21日に名古屋大学農学部第7講義室において、交流会を開催した。

6. 卒業・修了祝賀会の開催

令和6年3月25日に卒業・修了祝賀会を開催した。

7. 秋季卒業・修了祝賀会における記念品配布

秋季卒業・修了祝賀会において記念品を配布した。

8. 会報「セコイア通信」の発行

令和6年3月に発行した。

9. 同窓生の参加を促す事業の考案、連絡体制の強化

同窓生が同窓会に参加しやすくなるよう事業を考案する。HPにGoogleフォームへのリンクを設置し、メールアドレスの収集を行った。また企業同窓会に関する情報収集を始めた。

10. ホームページの作成と管理

同窓会ホームページのアップデートを完了するとともに一層の充実を図った。

特に「同窓生のご活躍」ページを新たに作成した。

11. 事務局機能の充実

理事・監事・幹事・事務局の仕事を整理し、適宜削減・拡充を行った。

12. 支部活動の支援

卒業生への名簿適用など、支部活動への支援を行った。

13. 資産運用計画の立案

資産運用計画の検討を行った。

14. 同窓会名簿データの管理

同窓会名簿データの更新を行うとともに、要請に応じて名簿情報の提供を行った。

15. 全学同窓会への協力

全学同窓会幹事会に役員を出し、運営に協力した。

16. 新規事業の考案

農学部・生命農学研究科同窓会の交流を活性化するための新たな事業を検討している。

特に10年周年同窓生への「名古屋大学への集い」へのご招待（全学同窓会）と合わせた新事業を検討している。

17. 名簿の発行

名簿の発行を行った。

18. 持続可能な財政管理の検討

慢性的な赤字体質を脱却するため、財政の改善について次のような方策を中心に検討した。

(1) 会費納入率の向上

(2) 収益事業

(3) 寄付金の増額（同窓生、会員、同窓生の関係する法人などへの依頼強化）

今年度は特にセコイア通信への緊急のお願いの同封、入学式父母等説明会での永久会費納入のお願いなどを行った。

一般社団法人名古屋大学農学部・生命農学研究科同窓会
令和6年度（令和6年9月—令和7年8月）事業計画

1. 総会の開催

令和6年10月19日、名古屋大学農学部第12講義室において総会を開催する。

2. 卒業・修了50周年記念祝賀会の開催

令和6年10月19日に卒業・修了50周年を迎えた方をご招待し、農学部卒業50周年記念祝賀会を開催する。

3. 同窓生在籍企業紹介の共催

令和6年10月19日に名古屋大学農学部との共催で同窓生在籍企業紹介を開催する。

4. 講演会の開催

令和6年10月19日に名古屋大学農学部第12講義室において、講演会を開催する。

講師：榊原 均氏

演題：「栄養環境に応答した植物成長調節の分子機構」

5. 交流会の開催

令和6年10月19日に名古屋大学農学部第7講義室に

おいて、交流会を開催する。

6. 卒業・修了祝賀会の開催

令和7年3月25日に卒業・修了祝賀会を開催する。

7. 秋季卒業・修了祝賀会における記念品配布

秋季卒業・修了祝賀会において記念品を配布する。

8. 会報「セコイア通信」の発行

令和7年3月に発行する。

9. 同窓生の参加を促す事業の考案、連絡体制の強化

同窓生が同窓会に参加しやすくなるよう事業を考案する。またメールアドレスの収集など、同窓生への連絡が円滑に行えるようする。さらにホームページも利用し、同窓生への連絡体制を強化する。

10. ホームページの作成と管理

同窓会ホームページのアップデートを完了するとともに一層の充実を図る。

11. 事務局機能の充実

同窓会が一般社団法人化したため、事務局機能の整理が必要となる。

理事・監事・幹事・事務局の仕事を整理し、適宜削減・拡充を行う。

12. 支部活動の支援

卒業生への名簿適用など、支部活動への支援を行う。

13. 資産運用計画の立案

資産運用計画の提案を行う。

14. 同窓会名簿データの管理

同窓会名簿データの更新を行うとともに、要請に応じて名簿情報の提供を行う。

15. 全学同窓会への協力

全学同窓会幹事会に役員を出し、運営に協力する。

16. 新規事業の考案

農学部・生命農学研究科同窓会の交流を活性化するための新たな事業を考案する。

17. 持続可能な財政管理の検討慢性的な赤字体質を脱却するため、財政の改善について次のような方策を中心に検討する。

(1) 会費納入率の向上

(2) 収益事業

(3) 寄付金の増額（同窓生、会員、同窓生の関係する法人などへの依頼強化）

一般社団法人名古屋大学農学部・生命農学研究科同窓会 令和 5 年度決算

令和 5 年 9 月 1 日～令和 6 年 8 月 31 日

単位：円

科 目	非収益事業	収益事業	合 計
事業活動収入			
1. 会費収入			
永久会費	1,660,000	0	1,660,000
永久会費（未収分）	1,760,000	0	1,760,000
一般会費	15,000	0	15,000
一般会費（未収分）	5,000	0	5,000
2. 寄付金収入			
寄付金	401,813	0	401,813
寄付金（未収分）	78,000	0	78,000
3. 事業収入			
広告掲載費	74,395	0	74,395
総会関連収入	36,000	0	36,000
4. 雑収入			
受取利息収入	0	0	0
有価証券利息	0	0	0
事業活動収入合計	4,030,208	0	4,030,208
事業活動支出			0
1. 事業費支出			
会報発行費	1,969,335	0	1,969,335
総会費	223,581	0	223,581
卒業50周年祝賀会	110,096	0	110,096
評議会・ホームカミングディ事業	147,111	0	147,111
卒業・修了祝賀会	351,656	0	351,656
役員報酬	148,548	0	148,548
支部支援金	150,000	0	150,000
事務局員雇用	1,091,200	0	1,091,200
スペースレンタル料	91,200	0	91,200
郵便振替手数料	24,866	0	24,866
会計士顧問料	55,000	0	55,000
会計士報酬	55,000	0	55,000
司法書士報酬	33,072	0	33,072
通信費	40,098	0	40,098
事務費	9,519	0	9,519
会費回収費	7,392	0	7,392
会費回収費（未払分）	29,370	0	29,370
事業活動支出合計	4,537,044	0	4,537,044
税引前当期純利益	－506,836	0	－506,836
法人税住民税事業税	21,000	0	21,000
当期純利益	－527,836	0	－527,836

一般社団法人名古屋大学農学部・生命農学研究科同窓会 令和6年度予算

令和6年9月1日～令和7年8月31日

【収入の部】

単位：円

科目	金額	細目	金額	備考
会費等	3,990,000	永久会費	3,400,000	170名
		一般会費	20,000	4名
		寄付金	480,000	48名
		広告掲載費	90,000	6件
卒業50周年祝賀会会費	70,000			2,000円×35名
令和6年度総会懇親会費	35,000			1,000円×35名
前年度繰越金	19,537,261			
合計	23,632,261			

(実質収入 4,095,000)

【支出の部】

科目	金額	細目	金額	備考
会報発行費	1,970,000	会報印刷・発行費	1,970,000	9600部(8600部発送)：サラトとクイックス
令和6年度総会	223,500	講演料	34,000	源泉所得税分を含む
		講師交通費	3,000	
		役員交通費	41,500	4名
		懇親会費	145,000	
卒業50周年祝賀会	125,000	飲食代	83,000	
		印刷発送費	42,000	招待状、記念写真送付
代議員会・HCD事業	154,000	会場設営費	68,000	
		交通費	68,000	
		事務・通信費	18,000	
卒業・修了祝賀会	345,000	飲食代	100,000	
		記念品代	205,000	
		役員交通費	40,000	3名
秋季卒業・修了祝賀会	10,000	記念品代	10,000	
支部支援金	150,000	関東支部	120,000	令和6年度分
		関西支部	30,000	令和6年度分
役員報酬	150,000	理事、幹事	150,000	12名×12000、源泉所得税分を含む
会計士・司法書士報酬	143,000	会計士・司法書士	143,000	会計士1名、司法書士1名、源泉所得税分を含む
事務局員の雇用	1,000,000	事務局員の雇用	1,000,000	1人
事務室のレンタル料	91,200	事務室のレンタル料	91,200	4m ²
その他諸費用	287,500	支払手数料	45,000	郵便振替手数料、送金手数料など
		課税納付	21,000	県民税
		通信費	61,500	オンライン会議費・発送費など
		事務費	160,000	事務用PC文房具など
新規事業	50,000		50,000	同窓会活性化のための新規事業
次期繰越剰余金	18,933,061			
合計	23,632,261			

(実質支出 4,699,200)

令和6年度 同窓会役員

名誉会長	中園 幹生（研究科長・植物遺伝育種学）	幹事（総務）	本道 栄一（動物形態学）
会長	小川 雄二（学外）		青木 弾（森林化学）
理事（副会長）	福田 秀志（学外）		佐藤 育男（植物病理学）
理事（関東支部長）	石川 靖文（学外）		仲田 麻奈（熱帯生物資源）
理事（関西支部長）	加藤 壽郎（学外）	幹事（会報）	藤田 祐一（ゲノム情報機能学）
幹事長	稲垣 哲也（生物システム工学）	幹事（会計）	大谷 仁志（ゲノム・エピゲノムダイナミクス）
副幹事長	柴田 秀樹（分子細胞制御学）		加藤 晃代（分子生物工学）
監事	藤井 潔（学外）	幹事（総務・会計）	稲垣 哲也（生物システム工学）
監事	中道 範人（植物統合生理学）	事務	赤池美紀子

関東支部だより

関東支部長 石川 靖文（S56食 D）

関東支部では、初夏の「新卒者歓迎会」と晩秋の「総会」を、東京・神田錦町の学士会館で開催している。

「歓迎会」は、令和6年6月8日（土）に開催。近年の卒業生3名と支部役員7名の10名が参加した。役員の一人は、偶々東京にご出張の福島先生であった。会館内名古屋大学東京連絡所に集合、挨拶・自己紹介、和食レストラン「二色」で会食・歓談、会館施設巡り、暑いほどの日射の中の皇居東御苑散策の後に有志で二次会、懇親を深めた。卒業生からは「初めての場所で面白かった」「福島先生の参加に感動した」「楽しかった。また参加したい」などの感想が寄せられた。

「総会」（第27回）は、令和6年11月9日（土）に開催。参加者は、会場18名、オンライン7名。会場参加の常連6名が都合で欠席、会場参加者が初の20名割れとなったが、関西支部会員、名大メルマガからの理学部OBの参加もあり、何とか合計で25名となった。

総会議事の部では、近藤幹事の進行で、小職の挨拶、横井監査役の会計監査報告に次いで、本部幹事長（支部幹事）の稲垣先生に本部の活動報告をいただいた後、次年度役員の選出を行った。特別講演の部では、小西副支部長の進行で、研究科長・学部長・植物生産科学教授の中園幹生先生（H4生 M）に「名古屋大学と農学部・大学院生命農学研究科の最近の動き」と「植物生産科学分野における持続型農業実現への取り組み」について、元国際団体勤務の玉井桂子さん（S60畜 M）に「報道の職場と国際協力事業（ジェンダー視点を含む体験）」について、それぞれお話を伺った。

総会議事では、前年度会計が監査承認された。今年度役員については、支部長再任、事務局長は春日井幹事から近藤幹事へ交替、幹事として本部との連携役を担っていただいていた福島先生も稲垣幹事と交替でご退任。本部の活動については、本誌別記事をご参照いただきたいが、加えて同窓会のシンボルである「メタセコイアの木」の由来についても話が合った。

中園先生の「大学の最近の動き」では、農学の使命

を「食」「環境」「健康」に関する様々な問題の解決とし、それに必要な教育・研究のために構成された学部3学科と大学院研究科4専攻について、その意義と役割が説明された。また、これを拡張するための海外の大学とのジョイント・ディグリー・プログラム（JDP：後期博士課程3年間のうち半年～1年間を海外の大学で研究）についても言及された。名古屋大学と当該大学が連名で単一の学位を授与するため、例えば、タイ王国一番の農学伝統校カセサート大学とのJDP学位記は、泰英日の三カ国語で連記されているとのこと。

現在は、大学院前期博士課程の85%が就職、15%が後期博士課程に進学しているが、その問題解決能力に期待して、民間企業から博士人材への求人が増えているので、後期課程で受けられる経済支援やキャリア支援の充実にも注力しているとのこと。

さはさりながら、先立つモノは入用で、昨今の電気料金の高止まりが研究費を圧迫している。昨年までの文部科学省からの支援金が、今年は打ち切られてしまったので、これを少しでも補うべく、募金キャンペーンを開始。返礼として、「東郷フィールド（農場）生産米（とうごう3号）」と「農学部・生命農学研究科トートバッグ」を贈っているとのことであった。

「持続型農業実現への取り組み」では、気候変動、自然災害増、人口増、高齢化などへの対策として、先生も属される「植物生産科学分野」の4つの研究室の取り組みが、研究者と共に紹介された。

①作物科学研究室： ^{13}C 安定同位体を用いた収量制限過程の解明やエンドファイト（植物共生細菌）によるイネの窒素吸収促進の研究をコメの生産に活用する一方で、マイクロコントローラーの適用で作物の生理生態の研究を加速。

②植物病理学研究室：バイオスティミュラント資材の開発。エビやカニ由来のオリゴ糖で植物の免疫力を活性化して耐病性の向上や成長を促進。

③耕地情報利用研究室：イネの根圏微生物群集の機能・動態の理解・定量化によってデータ主導型農業支援技術を開発。

④植物遺伝育種学研究室：地球温暖化による畑作物の

湿害の深刻化に対処するべく、過湿条件で誘導的な通気組織の形成メカニズム解明による食糧の増産。

質疑応答は、「大学の現状」、特に研究費の不足に集中した。文部科学省による運営費交付金の毎年1.6%削減が大問題。外部資金の導入も流行り廃りがあり安定しない。研究成果の知財化については、管理費が掛かる割に利益を上げているものは少ないとか。公的機関の研究職である参加者からは、後期博士課程に進学する学生には、選択肢を知った上で進学してもらいたい。必要であれば情報提供する旨の申し出もあった。

玉井さんの講演は、講師として招かれて光栄との謝辞から始まった。学部は筑波大学で、大学院前期博士課程を名古屋大学で修了（家畜繁殖学）。東京化学同人社で、雑誌『現代化学』の編集アルバイト。上司がお茶の水大学の分子生物学出身で、科学記者を勧められ神奈川新聞社社会部記者に。いろいろなところ取材に行くも、女性記者が珍しかった時代で、オトコ社会の中、怒れることも諸事あり。その後、休職し留学。米アイオワ州立大学大学院でジャーナリズム学を専攻（中園先生は同大学の元客員研究員というご縁）。

帰国後は『週刊朝日』委嘱記者として2年間勤務後、フィリピンに暮らし、同誌マニラ支局取材助手。1998年、東北地方の郵便局長が4,000万円を持ち逃げ、「恋人」のいるマニラに飛び、数ヶ月後に逮捕される事件があったが、恋人の住む村へ行き直撃インタビュー。現地刑務所の容疑者にも独占インタビュー。さらにフィリピンの入国管理局のエライ人にインタビューするも、プライバシー情報を根掘り葉掘り訊かれ、怒る。

The New York Times 東京支局リサーチャーを経て The Asia Foundation 日本事務所プログラム・ディレクターに就任。アフガニスタンでの周産期医療支援、ラオスでの人身売買保護女性の支援（シェルター）、職業教育支援センターの設立（縫製、鶏肉加工）など、アジア各国22ヶ所で、様々な国際支援業務に従事する。そのような中、口先の自立支援ではダメ、ライフ・スキルのない人にいきなりアレコレ求めるのも無理——といった思いを強くした。

日本と現地の時間の流れの違い（3倍位遅い）にイライラしながらも、どんな状況でも、新しいプログラムのためのファンドをアグレッシブに申請し続ける。



国際協力は言うのは簡単であるが、具体的に実現するには、プロのスキル、プロの人材が必要と、ODA コンサル会社への転職の直前にご主人が他界。これを機に、ゆったりとした仕事に転換、ビジネス英語指導の派遣講師や米国医薬情報の翻訳・編集の業務に携わる。

ここ10年は、自宅屋上での菜園やフライ・フィッシングに嵌り、毛針専用の鶏の繁殖などもしている。自宅界限にはタヌキ、ハクビシン、アライグマなども棲んでいて、野生動物の方が人間より強い、彼らとどう共存していくか？——を考えつつ生活している。

女性がジャーナリストや国際団体のプログラム・リーダーになることが稀な時代を生きてきたが、「女」を意識させられることはあっても、「働く女性」を意識したことはなかった。事実に基づき合理的に考え行動するのに男女の別はなく、アカデミズムやジャーナリズムの別もない。名古屋大学で育んだ「科学する心」のお陰で、思いのままに生きていくことができ感謝しているとのことであった。

質疑応答では、「海外で危険な目に遭ったことは？」との間に、「沢山あったが、有能な現場スタッフに支えられて切り抜けて来ることができた」とか。別の参加者からは、「同窓会ならではの講演で、外ではなかなか聴けず感服した」——との感想もでた。

講演終了後は、松本幹事の進行で、学生歌斉唱、集合写真撮影、休憩の後、懇親会に入った。「大病したが総会に参加できるまでに回復した」「昨年は新卒者で参加したが、この1年で小さなプロジェクトを任せられるまでになった」「退職後個人でビジネスを始めたが順調」など、飲食しながらの近況報告に一同大いに盛り上がった。中締め後は有志で二次会、盃を酌み交わし、大いに語らった。

今回の特別講演については、中園先生講演の「持続型農業実現への取り組み」部分と玉井さん講演の一部が、一般社団法人学士会の Web 総合情報誌『NU7』2025.7 No.60に掲載される予定である。

次回、新卒者歓迎会は本年6月7日（土）に、第28回総会は同11月8日（土）に開催の予定である。場所は、学士会館が、地域再開発で5年間閉鎖されることから、近隣のKKR ホテル東京に変更となった。

支部 HP : <http://www.nua-alumkanto.sakura.ne.jp/>
支部連絡先 E-mail : y_ishikawasan@yahoo.co.jp



関西支部だより

関西支部長 加藤 壽郎（S45農 M）

関西支部は、毎年11月に同窓会総会を開催しております。本年度は、関西支部発足から20年目の節目を迎えましたが、年一回の総会は、コロナ禍の3年間中止しましたので、今回で第17回目となりました。令和6年11月9日、大阪の中央電気倶楽部にて15名の参加者を迎え、楽しい一日となりました。例年、午前10時から総会議事を行い、続いて講演会を行います。この度は、タカラバイオ株式会社参事、北川正成さん（昭61農化 M）から、「ゲノム解析技術の進歩と社会とのかかわり」と題してご講演をいただきました。コロナ感染の有無を判定する技術として脚光を浴びたPCR検査技術について詳細なご説明をいただき、また、ライフワークとされてきたゲノム解析についてもわかりやすくお話をいただきました。一昔前、人間のゲノムの全解析をするという膨大な作業について見聞きし、その壮大な計画に驚愕したのですが、その後も、ヒトゲノム解析技術が更なる進歩を遂げてきているようです。今の時代は、個々人のゲノム解析ということまで進んできているようで、とんでもない時代になったものだと、今更ながら、科学技術の急速な発展に驚きました。

午後は、例年通り少し長い時間ですが、3時間にわたる懇親会を行いました。参加者全員から、順次お話をいただき、自己紹介、パーソナルヒストリー、近況、ご興味などについてお話いただきました。現職のみなさん、定年後のみなさんに、それぞれに深みのあるお話をいただき、とても楽しい時間をすごすことができました。名古屋大学農学部という同じ古巣を持つ人たちが、卒業後の人生をどのように生きてきたのか、また、これからどのように過ごそうとされているのかを伺うことは、興味深いですし、自らの今後を考えるうえでもとても参考になるのではないかと、いつもながら感じました。

関西支部は、全学同窓会関西支部の組織下でも活動を続けております。毎年、五月頃に、大阪中央電気倶楽部で開催しておりますが、長引くコロナ禍のため、



しばらく開催が見送られてきました。令和6年は、コロナ禍も収まったため、全学同窓会関西支部の総会が、5月18日に開催の運びとなり、農学部・生命農学研究科同窓会関西支部の会員のみなさまにもご参加いただきました。

当日は、全学同窓会関西支部長の藤井眞澄さまのごあいさつに始まり、渡邊誠一郎教授（名古屋大学大学院環境学研究科 地球環境科学専攻 地球惑星物理学教授）より、「小惑星探査機はやぶさ2のミッション 成果と展望」と題してご講演をいただきました。本当に遠くのちっぽけな小惑星から、小石を持ち帰ることに成功し、世界各地でその成分分析が進んでいる様子を伺って、すごい世の中になったものだと感激しました。

つづいて、名古屋大学総長の杉山直氏から「名古屋大学の挑戦」、また、名古屋大学全学同窓会代表幹事の木村彰吾氏から「全学同窓会活動報告」のお話をいただきました。ご挨拶やご講演の後は、参加者全員の懇親会で、各学部同窓会の支部活動などの紹介があったり、色々な方との懇親を深め、有意義な一日となりました。

また、令和4年より、支部活動の一環として、関西支部同窓会報の電子配信を始めました。昨年は第六号まで配信することができました。第六号からは、自由投稿のほか、各号ごとにテーマを決めてテーマに沿った投稿もしていただくようにいたしました。ちなみに第六号は、「私の健康法」について寄稿いただきました。名古屋大学農学部同窓会のホームページをお開き頂き、支部行事のサイトから入っていただくと、会報をご覧



いただけますので、是非一度覗いてみてください。

なお、令和7年度の関西支部総会は、11月1日（土）10：00～15：00、大阪中央電気倶楽部での開催を予定しております。是非、ふるってご参加ください。

支部長 加藤壽郎 jardin-kato@hera.eonet.ne.jp
事務局 寺前朋浩 kssequoia23@gmail.com

名大遠州会だより

佐々木 健（平成5年畜産）

名大遠州会は、静岡県西部（大井川以西）に居住または勤務する名古屋大学、大学院またはその前身校出身者から構成され、平成8年に設立されました。同窓会を毎年、また総会は隔年で開催しています。ここ数年はコロナ禍の影響により開催中止が続いておりましたが、令和6年は幹事会の話し合いの末、ついに開催する決断に至りました。また、開催場所についても令和6年はホテルクラウンパレスで行うことになりました。幹事一同、気持ちを新たにワクワクしながら、5年越しの遠州会総会および同窓会の準備をした次第です。

さて、令和6年は6月1日（土）に名古屋からの来賓をお迎えし、会員約60名が出席して総会ならびに同窓会を開催しました（恒例となった出席者での写真撮影を行いました）。総会では野村和彦会長の挨拶の後、平成30年度から令和5年度までの事業報告、会計報告・会計監査報告及び新役員の紹介を行いました。引き続き杉山総長が「名古屋大学の挑戦」と題して、最近5



年ほどの名古屋大学の変化や課題、国内・国外に向けた様々な挑戦についてスライド資料をお示しされながらお話をされました。伊藤副会長からは名古屋大学同窓会の岐阜支部の設立経緯や今年度の総会について、木村代表幹事からは全学同窓会の活動内容についてのお話がありました。

その後、南方顧問の乾杯発声で懇親会をスタートし久しぶりの再会を楽しみました。会の中盤では、用意した名大オリジナル商品や幹事の提供品を景品としたビンゴゲームを実施して全員大いに盛り上がり、たいへん和やかな雰囲気の中、黒木副会長の中締めで21時00分に終了しました。

このように、毎年5～6月ごろに名古屋大学総長や全学同窓会の関係者も来賓としてお招きし、同窓会や総会を開催しております。また、ビンゴゲームやミニコンサートなどを余興として盛り込んでおり、老若男女の参加者全員が楽しめる企画になっております。本年につきましては、2025年5月31日（土曜日）を予定しており、遠州会会員の皆様には開催案内をお知らせしますので、何卒よろしくお願いいたします。また、遠州地区にお住まいで、このセコイア通信にてこの「遠州会」にご興味をお持ちになられた方（名古屋大学農学部や大学院生命農学研究科の卒業生）は、当方にメール等でご連絡くださればご案内いたします。

最後に余談で恐縮ですが、最近、この遠州地区に限らず名古屋大学の卒業生や在学生の活躍を目にすると、より喜ばしく感じるようになりました。そんな中、東京で活動するライブアイドルさんで名古屋大学の在学生の方に偶然お会いした時、とても嬉しい気持ちになり、チェキ列に並んだことを自白いたします（オタク活動）。

連絡先：遠州会農学部幹事 佐々木健

〒431-3192 浜松市中央区半田山1-20-1

浜松医科大学 器官組織解剖学講座

Tel：053-435-2293 Fax：053-435-2290

Email：tsasaki@hama-med.ac.jp

農学部談話会からのお知らせ

農学部談話会は平成14年（2002）年10月11日に設立され、当農学部・大学院を退職された教職員を構成員としています。今回は杉山達夫・磯部稔の2名の先生に寄稿頂きました。また田島茂行先生からは昨年11月に急逝された中村研三先生との思い出を書いていただきました。

2024年の会合では10月19日の同窓会行事（名古屋大学ホームカミングデー）に合流させていただきました。卒後50周年の招待者の集まりでは、談話会から福田勝洋先生に挨拶をして頂きました。また福田先生の他に山下興亜・小鹿 一・束村博子・柳沼利信・松本哲男・宗宮弘明の各先生より近況・心境を語って頂きました。

なお、寺島典二・下村吉治・他の先生から欠席の連絡とお祝いのメールを頂きました。

今期より宗宮さん・小鹿さんに世話人として参加いただくことになりました。談話会として、引き続き世話人を募集していますので自薦他薦をお願いする次第です。アドレスが分かっている方にはメールで案内をお送りしていますが、アドレスが不明の方が多くなってきました。案内が届いていない場合にはメールで連絡いただければありがたいと思います。

2024年度の物故者（親族様からご連絡いただいた）は、8月11日逝去 中村 良先生（享年92）、8月26日逝去 丸茂晋吾先生（享年94）、11月11日逝去 中村研三先生（享年78）、12月27日逝去 塚越規弘先生（享年84）、の先生です。ご冥福をお祈りします。

（文責：織田銃一 oda_senichi-at-yahoo.co.jp）

私の学生時代

杉山 達夫（7回卒 S36農化B）

学部生時代の専攻は農芸化学科の「肥料・植物栄養学」でした。エネルギー不足による肥料生産に限界のあった終戦の直前・直後の十数年間、施肥は農業生産にとって大きな律速要因であり、この領域の学術は当時の農業生産に即してはいますが古典的な栄養生理学の範疇にはいるもので、生意気ながらわが身の将来を託す気にはなりません。学部卒業時には肥料・砂糖・繊維生産が著しく活況で、三白（さんぱく）景気と云われた時代で、これらの関連業界に就職した仲間も多くありました。当時この学部の専門講義で記憶している一例は元肥（元ごえ）とか、段あたり牛車で何杯の堆肥、人畜糞尿……でした。

卒論の題目は谷田沢道彦助教授の指導の下で「水稻幼根 NH₄呼吸に及ぼす陰イオンの共存効果について」で、呼吸測定器との戦いでした。この機器は今では見かけないでしょうが、気圧の変動に伴い測定値が大きくぶれるのが苦闘の原因でした。修士論文は五島善秋教授の下で、題目は「植物種による養分吸収の差異について」でした。先生の説明は「イネと葉菜では養分吸収力が異なる。どこに違いがあるのかを突き止めよ」でした。不消化のまま我流で研究をはじめ、その結果国際誌 Plant Physiology に論文が掲載されたのを機に生化学への転向を考えました。そこで、博士課程に進んだのを機に、フィリピンに米国が新設した国際イネ研究所（International Rice Research Institute）で生化学部長の本学部生物化学研の赤沢堯助教授の下に（1年間休学）出かけ、イネ穀実のデンプン生合成の研究に従事しました。帰国して間もなく新設された生化学制御研究施設の赤沢研の助手となり、博士課程を中途退学しました。伊勢湾台風で授業がかなり長い中断を受けた安城での時代にせよ、東山移転後にせよ、学生時代は農学部的神話時代であったかもしれませんが、活気あふれる時代でした。

東山キャンパス統合と定年前後の思い出

磯部 稔（13回卒 S42農化B）

昭和19年生まれの私は、名大が蛸足状態から東山キャンパスに統合する時期であった。教養部1年生の朝東山で講義が終わると、午後の生物学実習は滝子に行き、夕方のクラブは名城まで移動する日々であった。3年生には付属農場や野球場のある広い安城キャンパスに通った。4年生からは現在の農学部研究棟に通い、生物有機化学研究室を選んだ。大学院・助手と天然物有機化学の道を歩み、米国コロンビア大学博士研究員の後名大に戻った。助教授・教授時代には、延300名超の卒業生・外国人研究員・共同研究者とともに優れた業績・成果を積みあげた。2024.3日米化学会からNakanishi Prizeを受賞できたことは感謝に絶えない。

約20年前、世の中への恩返しとなる国際的な活動をはじめた。名大とタイ国 Churabhorn Res. Inst. との学術交流協定、日中有機化学シンポジウム、JSPSのアジア有機化学研究拠点事業（ACP）を創設した。今日まで続いている。他に後藤メモリアルシンポジウムなど多数の国際学術シンポジウムを開催して後進の育成に努めた。私は、当時IUPAC有機化学部会のPresidentを務め、「21世紀はアジアの化学」をスローガンに叡智を集積した。同時にアジア8ヶ国・地域の最先端有機化学者をACPのもと多難の準備を経て2005.10に発足させ、翌年3月名大野依記念館で国際会議（第0回）を開催した。以来沖縄（第1回 ACP-2006）から台北（第17回 ACP-2024：途中コロナで2年休会）会議まで、延べ3000人のアジアの有機化学者がACPに参画した。そこで選出されたレクチャーシップ1000人以上の有機化学者は、相互に国境を超え訪問講義をした。その影響を受けた若手研究者の数と効果は計り知れず、今日アジアの有機化学が世界をリードしている実績に貢献している。

私は、名大を定年退職後台湾の新竹に移住し、清華大学に磯部研究室を開いた。研究環境にも恵まれ、ポスドク10名、博士7名、修士11名が修了し、良い研究成果を挙げた。帰国後8年、80歳となる。同窓会にも顔を出し旧交を温め、国内外で講義を続けるなど元気に過ごしている。

Minoru Isobe 名古屋大学名誉教授（2008～）・紫綬褒章（2008）・瑞宝中綬章（2018）

中村研三君を偲んで

田島 茂行（17回卒 S46農化B）

私は名古屋大学農学部農芸化学科、農学研究科で中村研三君と同期でした。研三君の訃報を聞いて本当にびっくりしました。

学部生時代、私は合唱団、彼は軽音と音楽系サークルに所属しました。岐阜から出てきた私と比べ、彼は都会的な落ち着きがありましたし、音楽同好の友とし

て何となく親しみを感じていました。大学院進学後も同じく生化学若手の会に入り、同会夏の合宿で一緒に事務局を担いました（写真は当時の事務局員一同）。博士学位取得後、アメリカへのポストドク修行でも時期を同じくし、米国ロードアイランドにある彼の研究所へ遊びに行き、一緒に魚釣りを楽しんだのもいい思い出です。彼が植物遺伝子工学のパイオニアとして名古屋大学農学部生化学講座に奉職されたあとも色々技術指導をしていただき、大変お世話になりました。定年後、彼は八ヶ岳の麓で別荘を買い、山行を楽しんでいると聞き、お願いして泊まらせていただきました。お元気そうで、近在の名所を案内してくれ、夜はパートナーの方も同席して懐かしいお話をたくさんさせていただきました。彼は家族を大切に、色々な同窓会、友人に親切で、決して厭な顔をせず、我々を包み込んで

てくれました。ご冥福をお祈りいたします。本当に残念でなりません。



中村研三さんは後列右端・筆者は後列左から2人目

農学部的话题 —2024.1.1-2024.12.31—

- ・食と脱炭素 あり方は 中部の環境考える会 名古屋で25日例会、配信も 2024.1.16中日新聞
- ・脱炭素と食 話し合う 中部の環境考える会 名古屋で25日例会 2024.1.17中日新聞
- ・遺伝子組み換え 他生物に影響か デンキウナギ放電 飯田敦夫名古屋大学生命農学研究科助教 2024.2.20日経新聞
- ・第83回中日農業賞 審査委員会 徳田博美名古屋大学生命農学研究科教授 2024.2.23中日新聞
- ・デンキウナギの放出電気 遺伝子組み換え促進か 飯田敦夫名古屋大学生命農学研究科助教 2024.2.28毎日新聞
- ・デンキウナギの”放電”で遺伝子組み換え? 名古屋大など発表 2024.3.8中部経済
- ・モリアオガエル なぜ地上に巣? 危険だけど…寒さから卵守るため 名大グループ発表 2024.3.13中日新聞
- ・生物多様性 ビジネスチャンスに 中部の環境を考える会 来月2日例会、配信 2024.5.19中日新聞
- ・生物多様性と商機考える会動画配信 2日の例会 2024.5.28中日新聞
- ・ジャガイモ疫病菌から抵抗性高める物質特定 稲にも効果 竹本大吾名古屋大学生命農学研究科教授 2024.6.4日本農業
- ・植物の免疫力高める 物質2種特定 竹本大吾名古屋大学生命農学研究科教授、京都大学 2024.6.7日刊工業
- ・農作物向け「ワクチン」 ジャガイモで病原菌抑制 環境負荷低く 竹本大吾名古屋大学生命農学研究科教授、小鹿一同名誉教授 2024.6.18日経新聞
- ・食品の最新研究 成果報告 岐阜県食品化学研究所と岐阜大学応用生物科学部が発表会 中島健一朗名古屋大学生命農学研究科教授、岡田彩加岐阜大学応用生物科学部准教授、今泉鉄平同准教授が発表 岐大ビールなどの試食も 2024.6.27岐阜新聞
- ・絶滅危惧の外国人 CEO 2024.7.6日経新聞
- ・自動車の最新技術・製品が終結 愛知県国際展示場「人とくるまのテクノロジー展 2024NAGOYA」本日開幕 2024.7.17中部経済
- ・脂質異常症の新薬に道 副作用抑えた化合物開発 名古屋大学トランスフォーマティブ生命分子研究所と生命農学研究科のグループ「既存の薬が効きにくい患者に薬を届けたい」佐藤綾人名古屋大学トランスフォーマティブ生命分子研究所特任准教授 2024.8.7中日新聞

- ・脂質異常症を改善 甲状腺ホルモン活用 化合物開発 大川妙子名古屋大学トランス・フォーマティブ生命分子研究所／生命農学研究科准教授 2024.8.7日刊工業
- ・甲状腺ホルモンの類似分子 脂質異常症の薬候補 マウスで効果確認 大川妙子名古屋大学生命農学研究科准教授 2024.8.20日経新聞
- ・日本のキノコ栽培学ぶ インドネシア農家ら、岐阜県森林研究所で研修 名古屋大学などが協力 2024.8.23中日新聞
- ・起源には諸説 蜜の構成も光る 2024.9.21日経新聞
- ・河本三紀夫カワモト企画代表取締役役に紺綬褒章 名古屋大学生命農学研究科に多額の寄付を行った功績 柴田貴広同教授が受賞を伝達 2024.10.5中部経済
- ・産学連携促進で説明会 7大学が食農技術紹介 名古屋大学、岐阜大学 柴田貴広名古屋大学生命農学研究科教授が取り組みを紹介 2024.10.17中部経済
- ・食農技術説明会 三菱 UFJ が名古屋で開催 柴田貴広名古屋大学教授、他が発表 2024.10.21日刊工業
- ・3たんばく質が手助け ホウ酸チャンネル 植物細胞で栄養輸送 石黒澄衛名古屋大学生命農学研究科准教授、大阪公立大学 2024.10.31日刊工業
- ・牛の不妊 一端を解明 高発現 RNA 胚導入でブレーキ 松山秀一名古屋大学生命農学研究科附属フィールド科学教育研究センター准教授、市川怜同大学院生 2024.10.31日刊工業
- ・Culture 世界の仲間と熱い一極 3年に1度 国際将棋フォーラム 2024.11.26中日新聞
- ・高等研究院長に榊原氏 2024.11.29中日新聞
- ・ルシフェリン安価に 衛生検査向け 簡便な合成法 加藤まりあ名古屋大学生命農学研究科生、西川俊夫同教授 2024.12.26日刊工業

同窓会寄付者一覧

(2024.1.1～2024.12.31)

一般社団法人名古屋大学農学部・生命農学研究科同窓会に対し以下の方々より寄付金をいただきました。ありがとうございました。(敬称略)

Benedicbus Reginaldo Hartanto	秋元 孝哉	旭 正	天野 一廣	石井(梅村)ひとみ
石川 靖文	一政 祐輔	伊藤 憲一	伊藤 雅人	井上 忠彦
大岡 左枝	大久保忠旦	大島 光昭	岡本 譲	小鹿 一
蔭山 侑香	春日井 治	金子 衛	川口 章	河瀬 真都
木村 恭文	清原 貞夫	久野 勝治	栗本 重夫	近藤 伸一
志水 俊夫	清水菜々子	生源寺眞一	杉山 僚斗	鈴木 崇弘
鈴木 奏仁	高岡 信也	高田みずき	舘本 勲武	谷 舞子
多和田悦嗣	戸田 至映	中村 友輔	成瀬 和也	野原 葵
長谷川規隆	秦 慎一	曳地(平井)利枝	平野 孝次	平野 純吉
福井 敏夫	福嶋 三喜	二村 百華	間瀬 英男	松田 貞夫
松本(金田)和子	三浦 健	三浦 則夫	三浦 由雄	水落 勁美
水野 修一	三谷啓一郎	三宅 博	三輪 公夫	村崎 史郎
柳瀬 仁茂	山形 秀夫	山本 義典	吉村 悠輔	渡辺 満
				他 匿名1名

以上、77名の皆様

全学同窓会だより

名古屋大学が発展していくためには、大学と同窓会の緊密な連携が必要とされており、大学と同窓会は連携して社会に一層の情報公開を行い、社会から種々のニーズをくみ上げる必要があります。全学同窓会は部局同窓会と連携しながら卒業生、学生、教職員の交流の場を提供し、名古屋大学全体の種々の活動に関する情報を発信しています。農学部からも3名の全学同窓会幹事（稲垣哲也、柴田秀樹、本道栄一）が参画しました。全学同窓会は2024年度、以下の活動を行いましたのでご報告いたします。

1) 同窓生名簿の整備

- 大学の運営する「卒業生等名簿管理システム」運営への協力
- 大学および各部局同窓会との連携強化
- 名簿の活用

2) 財政基盤整備

- 支援会員の募集、支援会費自動引落利用者の拡充
- 同窓会カードの普及、及びカード優待店舗の開拓
- 活動協力金の取り組み

3) 拠点形成

- 関東支部、遠州会、関西支部、岐阜支部との連携・支援
- 愛知支部または名古屋支部の設立検討
- 海外支部との連携・支援、新たな海外支部の設立検討
 - ・新たな支部設立の検討をする（スリランカ、シンガポール、エジプト）
 - ・海外支部への財政支援（支部費配分）
 - ・各支部（韓国、バングラデシュ、上海、タイ、北京、ベトナム、カンボジア、モンゴル、ウズベキスタン、台湾、ラオス、ミャンマー、インドネシア、フィリピン、マレーシア、米国）との連携強化

4) 全学同窓会活動の運営基盤整備

- 評議員会の開催
- 部局同窓会との連携強化
 - ・名古屋大学同窓会サミットの開催
- 大学との連携強化
 - ・連絡会議の開催
- 委員会活動の機能強化
- 講演会・夕食会の実施
- クラブ活動同窓会、企業内同窓会等との連携

5) 学生支援

- 名大祭パンフレットへの広告掲載
- 寄附講義「キャリア形成論」の支援
- 学生活動支援
- 入学式、卒業式への全学同窓会からの来賓出席、祝辞
- 就職支援活動の検討

6) 大学支援

- 名古屋大学基金活動の支援
- ホームカミング日の共催、支援
- 大学支援事業の実施
- 国際交流活動の支援
- シンポジウム、フォーラムなどの後援
- アカデミックガウン購入の支援

7) 広報活動

- 大学と連携し、全会員に情報を発信
- 全学同窓会 Newsletter の発行
- 大学発行メルマガからの情報発信
- ホームページ、フェイスブックの活用
- 卒業生・修了生への全学同窓会活動の紹介

一般社団法人名古屋大学農学部・生命農学研究科同窓会会費規則

第1条（目的）

この規則は、この法人の定款第8条の規定に基づき、会員が支払う会費等に関する必要事項を定める。

第2条（会費）

会員は、定款第6条に定める種別に従って次の会費を納めなければならない。会費には会誌の購読料が含まれるものとする。

- （1） 正会員 永久会員会費2万円
 ただし平成11年度以前に卒業の正会員は5年ごとに5000円
 （平成11年度以前卒業の正会員も永久会員会費2万円を支払うこと
 で永久会員とする）
- （2） 学生会員 永久会員会費2万円
 ただしいったん永久会員となった場合、
 卒業後そのまま正会員（永久会員）に移行する。
- （3） 特別会員……会費徴収なし
- （4） 名誉会員……会費徴収なし
- （5） 特例会員……会費徴収なし

第3条（規則の変更）

この規則は、社員総会の議決によって変更することができる。

附則

- 1 この規則は、2022年8月1日より実施する。

事務局だより

事務局では名古屋大学農学部・生命農学研究科同窓会会員録データの改訂を行っています。転居および転勤の際は、同窓会事務局（dosokai@agr.nagoya-u.ac.jp）までご連絡ください。今後も会員の皆様からのご質問・ご要望にお応えして参りたいと考えております。ご支援・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

同窓会したいなあ と思ったら

Reフレンズイメージキャラクター
ともーる



同窓会幹事代行

★住所録不要。案内状発送・出欠管理はお任せください。

お問い合わせ 株式会社 サラト Reフレンズ専用

TEL 0120-953-070

受付時間 月～金 9:30～12:00/13:00～17:00

株式会社 サラト

〒670-0948 兵庫県姫路市北条宮の町172

TEL 079-284-1380 FAX 079-284-0904



印刷業から情報デザイン業へ

Info. + Design

長年培った表現技術を活かし、「印刷業」から
「情報デザイン業」へと進化していきます。

販促支援サービス

マニュアルサービス

P&Dサービス

教育出版支援サービス

株式会社 **クイックス**

<http://www.kwix.co.jp>

■本 社 〒448-0025 愛知県刈谷市幸町2-2

TEL 0566-24-5511 FAX 0566-26-0200

代表取締役社長 岡本 泰

農学部・生命農学研究科同窓会事務局では、広告の募集をしております。本会報の発行部数は、現在約10,000部で、本学農学部関係者に配布されています。会社の広告、同窓会の通知などにご利用下さい。

詳しくは、同窓会事務局まで。

個人情報の取り扱いについて

名古屋大学農学部・生命農学研究科同窓会では個人情報の正確で適切な管理に万全を期するため、会員データの管理を株式会社サラトへ委託しております。株式会社サラトは愛知県内約80校全国約1,500校の同窓会で会員データ管理を手がけ個人情報保護法に最も精通したプライバシーマーク取得企業です。なお、サラトは得られた個人情報を責任を持って厳重に管理し、個人情報を第三者に開示または提供しないことについて、名古屋大学農学部・生命農学研究科同窓会とサラトとの間で契約を取り交わしております。